

感染症への不安に負けないために (主な人権課題:HIV感染者・ハンセン病患者等)

これまでに、ハンセン病やエイズなどの感染症について、感染者だけでなくその家族までもが差別されることがありました。そして、新型コロナウイルス感染症に関しても同様に差別が起こりました。感染者やその家族の苦しみは、病気そのものだけでなく人々の偏見や差別にあるといわれます。病気で苦しむ人に寄り添い、共に生きる社会にしていけるために、何が大切なのか考えてみましょう。

○ 次の新聞記事を読み、感染者やその家族などに対する偏見や差別を繰り返さないために必要なことについて考えてみましょう。

父の体に異変があり、1959年5月、高松市の国立療養所大島青松園に収容

■ 兄弟 「父は死んだ」、うそに苦しむ

親父は死んだ。本当は生きていたのに、うそをつき、ごまかして生きてきた。今年2月、大阪市内で開かれた集会で、徳島県に住む柗木博史さん(71)、茂さん(68) || いずれも仮名 || が半生を振り返った。

兄弟そろって、ハンセン病家族訴訟の原告に加わった。父、母、兄弟3人。山村で鶏を飼い、野菜を育てながら暮らした。貧しかったが、食卓はにぎやかで幸せだった。

父の体に異変があり、1959年5月、高松市の国立療養所大島青松園に収容

親父は死んだ。本当は生きていたのに、うそをつき、ごまかして生きてきた。今年2月、大阪市内で開かれた集会で、徳島県に住む柗木博史さん(71)、茂さん(68) || いずれも仮名 || が半生を振り返った。

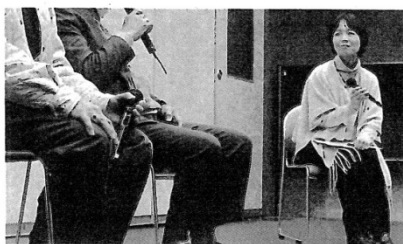
兄弟そろって、ハンセン病家族訴訟の原告に加わった。父、母、兄弟3人。山村で鶏を飼い、野菜を育てながら暮らした。貧しかったが、食卓はにぎやかで幸せだった。

父の体に異変があり、1959年5月、高松市の国立療養所大島青松園に収容

引き裂かれた子どもたち

ハンセン病家族の苦悩

⑤



ハンセン病差別を語る兄弟と担当弁護士の大槻倫子さん(右) || 大阪市中央区

親の話題を避けた。「病気がばれたら、たちまち仕事を失う」。恐怖感と隣り合わせだった。妻にも隠して結婚した。「隠し続けることが本当につらかった」と住民票は大島青松園のまま

85年、長男の博史さんが二世帯住宅を建て、父を引取り続けた。だが、病気は絶対知られてはいけない。父は近所つきあいをするのではなく、2階で過ごした。家族も同じように偏見差別に苦しんできた。博史さん

最後まで父の病気を隠し通した。「一番つらかったのは、もちろん親父。でも家族も同じように偏見差別に苦しんできた。博史さん

父は死んだ。本当は生きていたのに、うそをつき、ごまかして生きてきた。今年2月、大阪市内で開かれた集会で、徳島県に住む柗木博史さん(71)、茂さん(68) || いずれも仮名 || が半生を振り返った。

語る。妻には一緒に療養所を訪れたとき、打ち明けたが、妻の両親には言い出せなかった。今も妻の美家の墓参りに行くたびに、手を合わせ、うそをついていたことをわびる。

85年、長男の博史さんが二世帯住宅を建て、父を引取り続けた。だが、病気は絶対知られてはいけない。父は近所つきあいをするのではなく、2階で過ごした。家族も同じように偏見差別に苦しんできた。博史さん

最後まで父の病気を隠し通した。「一番つらかったのは、もちろん親父。でも家族も同じように偏見差別に苦しんできた。博史さん

父は死んだ。本当は生きていたのに、うそをつき、ごまかして生きてきた。今年2月、大阪市内で開かれた集会で、徳島県に住む柗木博史さん(71)、茂さん(68) || いずれも仮名 || が半生を振り返った。

決は28日、熊本地裁で言い渡される。(中部 剛) || おわり ||

○ キーワード

◆ ハンセン病

らい菌による感染症で、感染し発病すると手足の末梢神経のまひや手足の変形等が起こる。現在は、感染することも少なく、発症自体がまれであり、有効な治療薬により後遺症を残さずに治癒する。しかし、治療薬ができてからも偏見や差別が続き、平成8(1996)年の「らい予防法」の廃止まで隔離政策による人権侵害が続いた。

○ 参考資料

◆ パンフレット「ハンセン病の向こう側」(厚生労働省)

※ 補足

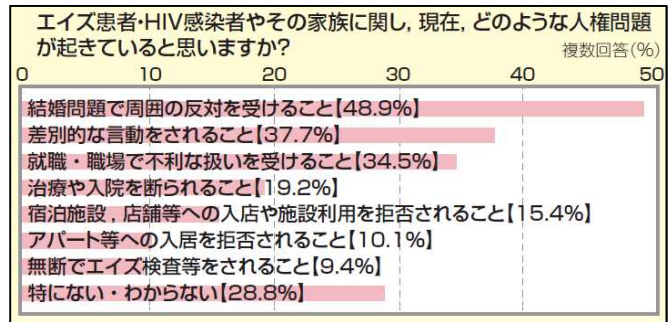
- 令和元(2019)年6月28日、ハンセン病家族国家賠償請求訴訟判決において、熊本地方裁判所は、家族は生涯にわたって継続する“人生被害”を受けたと指摘し、国に対し賠償を命じる判決を言い渡した。
- 安倍晋三首相(当時)は令和元(2019)年7月12日、国の責任を認めた熊本地裁判決の受け入れを表明する首相談話を出すとともに、同24日、首相官邸でハンセン病家族訴訟の原告らと初めて面会し謝罪した。(巻末資料参照)

(出典:神戸新聞 令和元(2019)年6月26日付け)

## ○ HIV 感染者等に関する人権問題

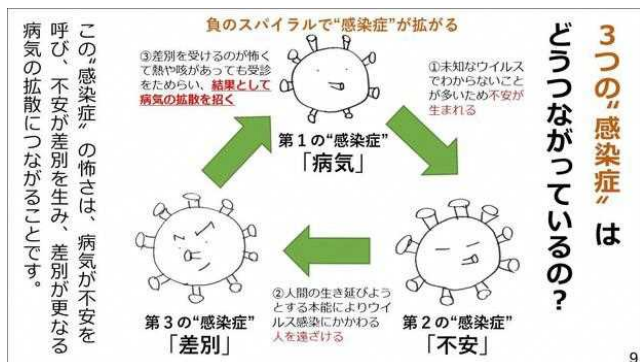
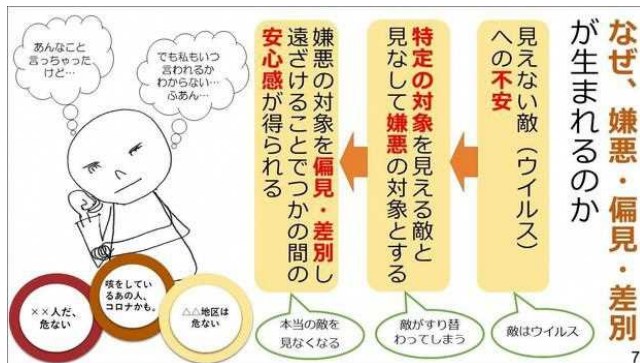
治療の進歩により、HIV に感染しても、早期発見及び早期治療を適切に行うことで、エイズの発症を予防し、他の人への感染リスクを大きく低下させることができます。

しかし、正しい知識と理解が十分に広まっておらず、誤解や不安から偏見や差別を招く一因となっています。



(出典:「人権擁護に関する世論調査」内閣府(平成 29(2017)年))

## ○ 新型コロナウイルス感染症と偏見・差別



(出典:「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！  
～負のスパイラルを断ち切るために～」  
日本赤十字社)



## ○ キーワード

### ◆ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

日本では令和2(2020)年当初から流行したコロナウイルスによる感染症。感染すると咳や発熱の症状が見られ、持病がある人は重症化のリスクが高い。社会や学校において、感染者やその家族、医療従事者に対するインターネット上での誹謗中傷、嫌がらせなどの差別が問題となった。

### ◆ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症予防法、令和2(2021)年一部改正)

過去の感染症の患者等に対するいわれのない偏見や差別が存在したという事実を重く受け止め、これを教訓として今後に生かすために、感染症の患者等が置かれてきた状況を踏まえ、患者等の人権を尊重しつつ、適切な医療の提供等、感染症に適確に対応することを目的とする。

### ◆ 感染症に関する偏見・差別に対する啓発活動

- ・ レッドリボン:エイズ患者への理解と支援のシンボル、エイズに関して偏見をもたず差別しないというメッセージを伝えるものとして用いられている。
- ・ シトラスリボン:新型コロナウイルス感染症に伴う、感染者やその家族、医療従事者への差別をなくすための運動のシンボルとして用いられている。



### ○ 関係機関・施設等

### ◆ エイズ予防情報ネット



## 考えてみよう

- Q1. 新聞記事を参考に、感染者やその家族に必要な言葉かけや接し方はどのようなものか、考えてみよう。
- Q2. ハンセン病や新型コロナウイルス感染症等について、「負のスパイラル」を断ち切り、偏見や差別を防止するためにどうすればよいか考えよう。